

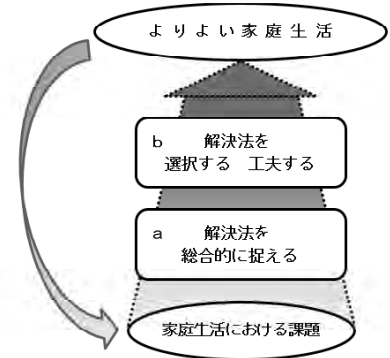
家庭科

1 育成したい「思考力」

- a 生活事象を多面的に見直して課題を見だし、解決法を総合的に捉える力
- b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

家庭科の学習において育成すべき思考力は、「生活を創意工夫する能力」である。その育成のためには、家庭生活について見直して、身の回りの生活における課題を見つけ、その解決を目指し、家族の一員として自分なりに工夫していく必要がある。そこで、本校家庭科では、育成したい「思考力」を上記の二段階に分けた。

この二つの思考の過程により、自分にもできたという喜びや自信をもつことで、家族と共に生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てたい。そして、「してもらおう自分」から「できる自分」へと成長できるように、「こうなりたい」という願いをもって家庭実践に取り組むことで、家庭生活における課題を自分のこととして捉えられる主体性を育成できると考える。



【家庭科「思考力」モデル図】

a 生活事象を多面的に見直して課題を見だし、解決法を総合的に捉える力

まず、自分や家族の家庭生活における一つの生活事象を多面的に見直していくのである。例えば、朝食について、栄養のバランス・色どり・量・調理時間・経費等のさまざまな観点で見直し、「内容がパターン化している」や「野菜が少ない」等の課題を見いだす。

次に、それらの観点で課題の解決法を多様に探り、その解決法を長所・短所の両面から比較・分析し、総合的に捉えていく。例えば、「野菜が少ない」という課題に対し、栄養バランスや色どりの観点から「おひたしを加えよう」や「トマトやレタスのサラダを付け足そう」といった一般的な解決法が見えてくる。その際、量や調理時間という観点でも比較・分析することで「おひたしはゆでているからたくさん食べられるが、調理に時間がかかる」や「サラダはたくさん食べられないけれど、洗って切るだけなので簡単に調理でき、時間も短い」とより総合的に捉えていくのである。このような「思考力」 a に重点をおいて本時を展開した実践例を紹介する。

第6学年「クールアドバイザーにまかせてね ー暑い季節を快適にー」

【本題材で育成したい「思考力」】

涼しく快適に過ごすための衣服の着方や住まい方を多面的に見直し、解決法を総合的に捉える力

本題材では、夏のくらしに焦点をあて、衣服の選択や着方、窓の開閉等、これまで何気なく行われてきたことについて改めて考え、衣生活・住生活を快適にする工夫を探っていった。その際、家族や下級生にアドバイスをする活動を取り入れ、相手に応じた内容を分かりやすく解説する場を設けた。特に、衣服については、集団宿泊学習に持って行く衣服を5年生にアドバイスすることにした。子どもたちは、勧めたい衣服とその理由について自分たちの経験を基に話し合い、同じ活動でもさまざまな着方があることを共有していった。そして、「いかだ作りは砂浜でするから、暑いし濡れる。体操服は汗をよく吸ってくれるけれど、涼しさ

や乾きやすさで考えたら、速乾性のあるメッシュ生地 of 白Tシャツがお勧めだ。」や「長袖は半袖に比べて暑いけれど、濡れることと日よけを考えて、いかだ作りには水泳用の長袖ラッシュガードを提案するよ。実際に日焼け防止に役立ったよ。」等と準備の際に役立つアドバイスをすることができた。このように、生地 of 厚さや乾きやすさ、袖・丈 of 長さや色等 of のさまざまな観点で比較して、衣服 of 選択や着方 of のよりよい解決法を総合的に捉える力が「思考力」 a である。さらに本時以降、自分自身 of 衣服 of のよりよい着方 of を考える場を設定し、「思考力」 b を育成した。



【アドバイスの内容を話し合う】

b よりよい生活づくりに向け、自分の家庭生活に適した解決法を選択したり工夫したりする力

たとえ一般的・総合的に解決法を見いだしたとしても、個々の家庭にとっては必ずしも有効とは言えない場合がある。そこで、「思考力」 a で見いだした解決法の中から、自分の家庭 of の状況に照らして、最も適していると思われる解決法を選択したり、よりよいものに工夫したりしていく力を「思考力」 b として位置づけた。

例えば、よりよい朝食を考えていく場合、一般的には、ごはんとみそ汁を基本にして献立を作成すると栄養バランスが整うとされている。しかし、それは必ずしも実生活に活用できるとは限らない。そこで、「朝は忙しいので、我が家では手早く準備できるパンを主食にし、卵等のおかずを組み合わせる」「みそ汁は調理に時間がかかるので、副菜は生野菜サラダにする」と、複数ある解決法から自分に実践可能なものを選択したり、「前日から煮干しを水につけておくとすぐにだしが取れ、短時間でみそ汁が作れる」と自分なりの工夫を考えたりするのである。このような姿 of の育成を目指し、「思考力」 b に重点をおいて本時を展開した実践例を以下に紹介する。

第5学年「かしこい消費者になろうーめざせ！買物の達人ー」

【本題材で育成したい「思考力」】

よりよい消費生活のために、環境に配慮しながら自分の状況や目的に合わせて物を選ぶ力

本題材では、参観日に保護者にご飯とみそ汁を振る舞う際のお茶選びを題材に、買物の学習を展開した。子どもたちは、学習発表会（附小フェスタ）でのうどん作り of の反省にあった「お茶が欲しかった」や「ゴミを減らしたい」という声を基に、4種類（①2L of のペットボトルと紙コップ、②500mL of のペットボトル人数分、③250mL of の紙パック人数分、④湯を沸かして自分で入れる）から、食事と一緒に出すお茶を選択した。自分だったらどれを選ぶか、または選ばないかについて理由を話し合う過程で、量・値段・利便性・ごみの量等 of の観点から比較・分析し、「思考力」 a が高まっていった。そして「値段が安く、心の込もった温かいお茶を入れられる④を選ぶ。」や「①は紙コップがごみになるから、湯呑みを使うようにする。」等、選ぶ理由を明確にしたり自分なりの工夫を加えたりしながら最終決定した。その後、「学校に毎日持ってくるならば」と状況を変えて考える場を設定すると、選択するお茶が変わり、その理由を「特別な日と毎日では変わる。」「お客様用と自分用では違ってくる。」等と話し合った。このように、相手や環境への配慮をしながら、自分の状況や目的に応じて解決法を選ぶ力が「思考力」 b である。



【選んだ理由を話し合う】